

社会主義は理想なのか
～「共産党宣言」に学ぶ

第1回

関東ブロック

なぜ学ぶのか

はじめに

司会 12017年は、1917年10月にロシアで革命が達成されてから100周年になります。1848年2月、マルクスが『共産党宣言』（共産主義者同盟の綱領・以下『宣言』）を書いてから、69年後、ヨーロッパの遅れた資本主義国ロシアではレーニンの率いるボリシェビキ（ロシア社会民主労働党多数派）の指導のもと、労・農・兵のソビエトが蜂起し国家権力を掌握して社会主義建設に入りました。

も74年後の1991年には崩壊し、東欧・ソ連圏の社会主義国は幻のごとく消え去っています。現在中国、ベトナム、キューバが社会主義国として存在していますが、その前途は多難さを極めています。

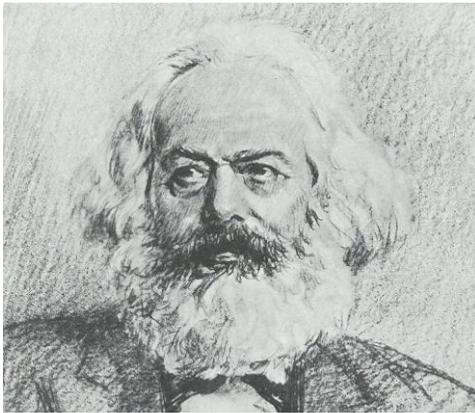
こうしてみると資本主義から社会主義への発展を示した19世紀のマルクス・エンゲルスの社会主義論とはどういふものなのか。『宣言』に示されたその道標は誤りであったのか検証せねばならないと思います。このみんなの学習講座は今年の1月号から12回の連載で12月号まで続きます。

担当は関東ブロックの友の会運動を担う仲間に参加してもらい組織的学習を進めていきます。今月号では、なぜ科学的社会主義の古典であり、その中でも金字塔の輝きをはなってきた『宣言』の学習を行うのかを考えてみたいと思います。

学ぶ意義

司会 1まず『宣言』を学ぶ意義について提起してください。

○ 1今、現代帝国主義は新自由主義の局面にあります。戦後ブレトンウッズ



カール・マルクス

体制は、1971年の金ドル交換停止
73年固定相場制から変動相場制へ移
行し、破綻しました。新自由主義とは
この恐慌を予防する手段を失ったため、
国家の介入であらゆる規制を撤廃し、
巨大金融資本が単一世界市場で自由に
投資し、利益を独り占めすることにあ
りました。この巨大金融資本を背景に、
多国籍資本としてグローバルに世界市
場をわがもの顔で支配し、最適地生産

により消費を求めて重層的水平的に展
開し、世界の労働者階級を搾取・収奪
し富を欲しいがままにしています。

しかし、2008年、突然ニューヨ
ークの株価暴落と投資銀行の倒産を引
き金に金融恐慌が世界を襲います。こ
の恐慌の襲来にさらされたブルジョア
ジーは恐れおののきました。1%のブ
ルジョア富裕層と99%のプロレタリ
アート貧困層の格差社会が歴然とした
なか、アメリカの失業に喘ぐ若者がウ
ォール街を占拠し抗議行動が始まりま
す。日本では労働運動、社会主義運動
が衰退の一途にあるなか、欧米では、
この格差社会を許さない新たな労働者
政党が台頭していることがその後の経
過を追うことに判明してきました。

新自由主義に対抗する

新たな労働者政党の台頭

2010年、欧州債務危機がギリシ

ヤを襲います。ギリシャ経済はデフォ
ルト(債務不履行)の危機によりEU
から緊縮財政を迫られ、年金、社会保
障の削減を求められます。ギリシャの
急進左派シリザは、ツイプラス党首の
指導のもと年金などの社会保障の削減
を迫る新自由主義政策を批判し、20
15年1月、総選挙で定数300議席
のうち145議席を獲得し第一党とな
り左派政権を誕生させました。そして
キューバ革命の星、ゲバラを尊敬する
ツイプラスは極左と悪罵を浴びました。
しかし、EU離脱も辞さないとして反
緊縮財政を掲げ、国民の支持の下、政
権につき、EUの盟主ドイツのメルケ
ル首相の緊縮財政の要請を拒み譲歩を
引き出しました。

次にイギリスでは、2015年9月、
労働党のJ・コービンが党首の座につ
きました。コービンは、新自由主義に
譲歩を重ねていた「中道」路線を批判
し労働者のストライキの現場に足を運

び、英労働党を階級政党に再生することを掲げ、失業で喘ぐ若者を味方につけて支持を広げています。

さらにスペインでは、左派新党・ポデモス（われわれはできる）がギリシヤのツイプラスと連携していた党首イグレシアス（38歳）の下で、大学の教員、若者のネットを使った支援の輪で、2015年12月総選挙で69議席を獲得し、その後、71議席と前進し、わずかに結党2年で第3党に躍り出たといっています。

さらには、一日8時間労働法制の解体を策動したフランスでは、2016年4月に120万人の労働者のゼネスト、大学、高校生の反坑が展開され、世界に驚愕を与えました。知らないのは日本の労働者だけです。

こうした一連の動向は、新自由主義に対抗する新たな労働者政党の台頭であり、労働者階級の階級闘争が燃え広がっている証しだといえるのです。

今こそ、社会主義への

展望を明らかにするときに

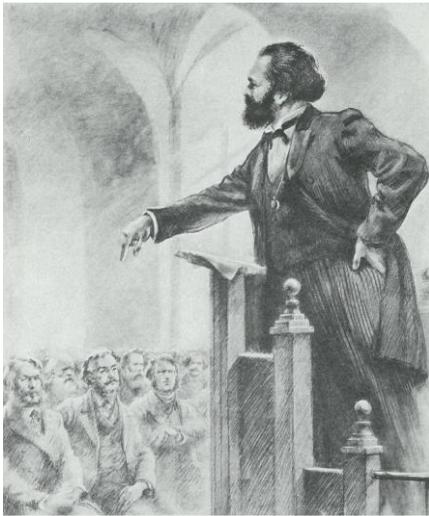
19世紀に書かれた『宣言』が社会主義復権を果たす役割が、今日改めて到来したといえるのではないでしょうか。日本でもかつては、1960年の三池・安保闘争の「総労働と総資本」の闘いがあり、1970年前半には国民春闘が闘われ、熾烈しじりつに闘われた階級闘争として国際的にも評価された時代があったのです。

それが今はどうでしょう。連合傘下の労働組合は資本の言いなりの状態です。それが、現場で働く労働者の健康と生命を奪い、ブラック企業ブラック企業の「24時間、死ぬまで働け」という攻撃で、過労死、自死行為がやまない状態を作っているのです。格差社会は若者の貧困を増やし、非正規労働から抜け出せず、大学を卒業しても奨学金返済で一生苦しむ状態です。上司の言うことを

聞かなければ。パワハラ、セクハラ、マタハラなどで精神疾患を患い失業に追い込まれるなど、働く者の悲惨な実態をあげればきりがありません。

昨年私たちは、みんなの学習講座で『労働法制改悪にどう立ち向かうか』で多くの闘う労働者が卑劣な資本のやり口は許せないと声をあげ、闘い続けている姿から多くを学んできました。気骨を失わない闘う労働者と労働組合は存在しているのです。しかし、闘うナショナルセンターがない今、これらの個別の闘いを横につなげ指導する労働者の階級政党が再生されていません。ここに問題の根幹があります。

それでは労働者の階級政党とはどう再生されねばならないのか、『宣言』に学び労働者が目指す社会主義とは何か。それは単なる理想でしかないのか。そうではないことを『宣言』の意義に学び明らかにしていこうと思います。



ロンドンのドイツ人労働者団体に講義するマルクス

労働者階級が自信と確信を

この『宣言』は1960年代、70年代に活動家となった人々は学習したことがあるでしょう。本誌『月刊まなぶ』の読者の方も読まれた方は多いと思います。しかし、最近、友の会に入った方に聞くと、この『宣言』を知らない方がほとんどです。そこでまったく読んだことのない青年に読んでもらい感想を聞くと、「これからの社会を

作っていかねばならない若者たちが政治・経済に興味がないという現状は、メディアが政府にコントロールされ、ネットは資本家が作り上げた広告に支配され、階級闘争を恐れている資本家たちの思い通りにされた結果です。しかし、どうみてもマルクスが言うように資本主義は行き詰っているのですから、いまこそ『共産党宣言』を学び社会主義への展望を明らかにすべき時であり、闘いに立ち上がる時だ」と素直にかえってきました。

みんなの学習講座では、『宣言』に何が書かれているかよりも、そこから何を学ぶのかに重点を置いていく必要があると思います。『宣言』の本文では、「今日までのあらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である」から始まり、「奴隷制、封建制、その中から生まれ

たブルジョア社会の生成、発展、消滅を歴史的、論理的に明らかにして、階級闘争論、国家論、社会主義論、プロレタリアートの階級闘争の戦術論等々、要するにマルクス主義のすべてが展開されています。

ここをしっかりと学習することは、現代資本主義社会が矛盾に喘いでいる中、私たち労働者階級が立ち上がらなければならないことを自覚し、確信を持つことにもなります。

資本主義から社会主義への

発展の必然性が明らかに

司会Ⅱ次に『宣言』が書かれた歴史的背景と根本思想について述べて下さい。MⅡマルクス・エンゲルスの共著である『宣言』は、1848年の2月ロンドンでの初版ですから、今から、169年も前に書かれた科学的社会主義の原典であり、世界の国々で翻訳され、



第一インター・ハーグ大会で話すエンゲルスとマルクス（1872年）

らくるものではなく、のちに述べる唯物史観から導き出した歴史の発展法則から科学的に明らかにされた思想であり、資本主義から社会主義への発展の歴史の必然性が明らかにされたからです。

『宣言』が書かれた歴史的背景とマルクス主義の根本思想とは

社会主義政党员はもろろんのこと、多くの労働者階級に愛読されてきた古典です。発刊されたことを最も恐れたのは資本家階級でした。なぜ、恐れられたのか。それは言うまでもなく、歴史の発展法則は、封建制を打倒し資本主義に作り変えた社会が、今度は資本主義生産で作り出した賃金労働者階級によって倒されることを明白にしたからでした。これは希望的観測や期待感か

次に書かれた歴史的背景です。『宣言』初版は、1848年2月末、イギリスのロンドンで公刊されたといわれています。この当時、ヨーロッパでは革命の嵐が吹きすさぶ時代でした。著者のマルクスは29歳、エンゲルス27歳という若き闘士は、ヨーロッパの階級闘争に身を投じ、『共産主義者同

盟』から深い信頼を得て、『綱領』の策定を委嘱されます。パリではすでに二月革命が始まっており、一千部の『宣言』が三月には持ち込まれています。その表紙には、マルクスの有名な言葉「万国の労働者団結せよ！」という最後の文言が刷られていました。しかし、当時はまだ一握りの共産主義者しかおらず、フランス革命に続く、三月ドイツ革命へ直接的影響を与えるほどではなかったようです。しかし、ブルジョアジーは、この共産主義者を恐れ、あらゆる弾圧とブルジョアアイデアロギーで押し殺そうとしてきました。この時代は、イギリスとヨーロッパ大陸では資本主義の発展に大きな違いがありました。イギリスは産業革命が終わり、資本主義の最初の自由主義の段階にあり、過剰生産による商業恐慌も循環的に発生し、労働者の窮乏化による反抗の増大によりその組織化も進みました。大陸では封建制からブルジ

◆みんなの学習講座

ヨア革命に導かれる時代であり、フランス革命、ドイツ革命は直接、プロレタリア革命を目指したものではありませんでした。しかし、ブルジョア革命の次にくるのは疑いなくプロレタリア革命であることにマルクスとエンゲルスは確信をもっていました。それを明らかにしたのがこの『宣言』です。

またマルクスは『宣言』の他にも、1847年〜48年の数種の著書で、その世界観と経済学説の根幹を書いています。その中でも『宣言』は鮮烈かつ強烈さをもって描かれています。このマルクスの理論は、レーニンが『マルクシズムの三つの源泉と三つの構成部分』で述べているように、19世紀のドイツ古典哲学、イギリスの古典経済学、フランスの社会主義を批判しつつ、この三つの源泉と構成によって生まれたものであるといわれています。司会II それでは、その内容は本文を学習する過程で明らかにしていきますが、

ここで簡単に触れておきましょう。

マルクス主義の三つの源泉と 三つの構成部分

MII 『宣言』の土台となっている思想とは何か。それは「哲学」「経済学」「社会主義」の三つの源泉です。

第一に、マルクス主義の哲学は弁証法的唯物論であるということです。それをエンゲルスは『フォイエルバッハ論』で簡潔に語っています。ぜひ読んでみてください。

マルクスとエンゲルスは、ヘーゲルを批判したフォイエルバッハの機械的・静止的な唯物論を批判し、ヘーゲルの弁証法を取り出し、結合させ、『弁証法的唯物論』を完成させました。この弁証法的唯物論によって、自然、社会、人間の精神の運動を統一的に捉えることができたのです。このことによって人間の社会・歴史にも認識を広げるこ

とが出来ました。これを「史的唯物論」といい「唯物史観」ともいいます。

第二の源泉は経済学です。マルクスは、イギリスの古典経済学を批判・発展させ、すべての商品の価値は、その商品の生産に支出される社会的必要労働時間の量によって決定されることを解明したのです。そして、人間の労働力が特別な商品となり、資本家のために剰余価値をつくりだします。この剰余価値が資本家階級の富の源泉なのです。この剰余価値学説は、マルクス経済学理論の礎石であるのです。

第三の源泉は社会主義です。マルクスはフランスのサンシモン、フーリエ、イギリスのロバート・オーエンらの空想的社会主義を批判し、2大発見、「唯物史観」と「剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露」によって、社会主義は科学となりました。

このマルクス主義の根本的思想から『宣言』は書かれています。